

聖書箇所① ルカによる福音書2章1節～20節、

- 1：そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。
- 2：これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。
- 3：それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。
- 4：ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、（5：）身重になっているいなずけの妻マリヤも一緒に登録するためであった。
- 6：ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
- 7：男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
- 8：さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。
- 9：すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
- 10：御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。
- 11：今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
- 12：あなたがたは布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これがあなたがたのためのしるしです。」
- 13：すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。
- 14：「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」
- 15：御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」
- 16：そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てた。
- 17：それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。
- 18：それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。
- 19：しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。
- 20：羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

聖書箇所② マタイによる福音書2章9節～12節

- 9：彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。（10：）その星を見て、彼らはこの上なく喜んだ。
- 11：そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。
- 12：それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

メッセージ骨子：

<序論> オリンパス事件は日本に衝撃を与えました。でもビジネスマンにとってこの誘惑や迷いは決して他人事ではなく、似た様な葛藤が私たちの周りには常に存在します。降ってわいた様な災難、人に言えない問題を抱えて苦しむ状況もしばしば。では、こういった戦いや危機を、聖書はどう説明しているのでしょうか。

<ポイント1> 『いたずらに不運を嘆くな』

律法破りの汚名、身重の長旅、家畜小屋での出産、ヘロデの迫害と、この世的には何一つうまくいかない、まさに逆境の中でイエス様はお生まれになりましたが、でもこれが史上最大の **God's project** の始まりでした。それはとりもなおさず、一見 **unhappy** な状況の中に在っても、そこにも主の血 (**blood**) に裏付けられた祝福 (**blessing**) は間違いなく流れているのだという、我々に対する大いなる慰めと励ましのメッセージなのです。

<ポイント2> 『祈る人生にキリストの星あり』

博士たちは星に導かれましたが、我々クリスチャンの祈りの人生には、そんな「キリストの星」が出現します。人？事件？み言葉？いずれの場合もそれは重大な人生の岐路に置かれた道しるべ、闇夜に輝く明けの明星です。

<ポイント3> 『主にお会いしたら別の道から帰れ』

「成功より実り豊かな失敗」が人生にはあります。失敗は軌道修正の絶好のチャンス。そこで主にお会いして、主の永遠に触れたなら、私たちは人の評価を気にする人生から、神の評価に目を留める人生に変えられます。

<まとめ> もうすぐクリスマス。キリストにある「永遠の命」こそが、実はあなたのために永遠の昔から準備された、本当のクリスマスプレゼントなのです。『神は、実に、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、一人も滅びることなく、永遠の命を持つためである。』（ヨハネ3：16）